

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

皆様いかがお過ごしですか。原稿を書いている今は9月の下旬です。朝晩すっかり涼しくなり、つい最近までの強烈な暑さのことも忘れてしまうほど快適な毎日です。本誌が皆様のお手元に届く頃にはすっかり季節は秋になっていることと思います。

今回の「あわみなと通信2020秋号」は、創刊以来50号目の節目の発刊となります。①創刊号は2005春号（平成17年）ですので、おおむね16年間に渡り発刊が続いております。これもひとえに、いつも手に取って読んでいただいている皆様のおかげです。

私は、あわみなと通信の創刊号を発刊したときの担当課長でありましたので、この16年の歴史を懐かしく思っているところです。当時を振り返りますと、本広報誌の名前を何にするか、どんな記事を書けば港湾のPRができるかと色々悩んだことなどを思い出します。

また、当時は本広報誌の創刊も含め、港湾のことを皆様により知ってもらおうという思いで、色々な広報活動を行ってまいりました。その中には、②小松島みなとまち絵地図の制作がありました。小松島の歴史について歴史家の田村直一先生や鎌田匡先生に色々教えていただきながら文章を作成し、絵は小松島高校の美術部の生徒さんをお願いして描いていただきました。

さらに③港町小松島今むかし～いろは歌留多～も小松島高校の美術部の生徒さんと一緒に作りました。

私どもの事務所の職員が横須の松原の育樹ボランティアに参加を始めたのもこの頃からです。松原の育樹ボランティアは今でも続いており、先日参加させていただきましたが、以前より多くの小松島高校の生徒が参加して熱心に松の木の下草を刈っている姿に感激しました。松も元気よく育っていました。

今後もこういった情報を掲載した「あわみなと通信」を引き続き発刊していき、地元で愛される広報誌にしていきたいと思っていますのでご愛顧のほどよろしくお願い致します。

小松島港湾・空港整備事務所長 新見 泰之

あわみなと通信
創刊号小松島
みなと絵地図港町小松島今むかし
～いろは歌留多～

Topic 橋港に接続する海域が緊急確保航路に追加指定されました

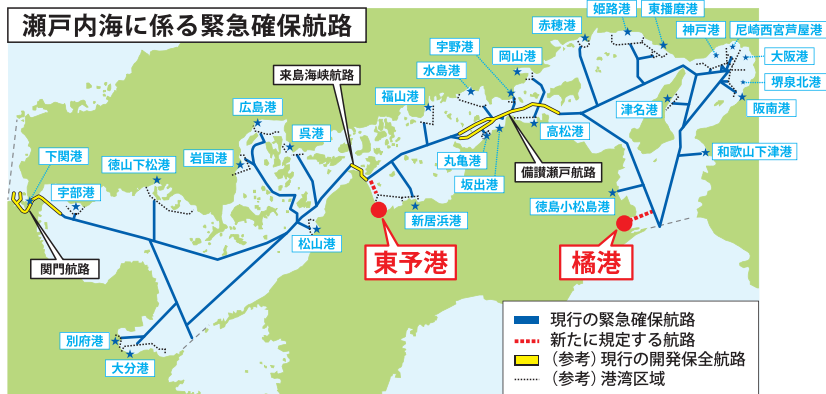
令和2年8月、瀬戸内海に係る緊急確保航路の区域に徳島県阿南市に位置する橋港及び、愛媛県の東予港に接続する海域が新たに追加指定されました。

平成23年の東日本大震災において、津波により港内外に流出した大量の貨物が航路を塞いだことで、緊急物資輸送船をはじめとする船舶の航行や入出港が困難となりました。

この教訓を踏まえ、“非常災害時に漂流物等の障害物により船舶の航行が困難となる恐れのある水域”を「緊急確保航路」として指定することにより、非常災害時の港湾機能の維持や船舶交通の確保のため、国が迅速に啓開作業を行うことができるようになりました。

徳島県内では徳島小松島港に接続する海域が唯一指定されていましたが、「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」において、平成29年6月に橋港背後の南部健康運動公園屋内多目的練習場が広域物資輸送拠点として、令和元年5月に橋港が海上輸送拠点として位置付けられたことから、令和2年8月に港湾法施行令の一部が改正され、橋港に接続する海域が新たに緊急確保航路に追加指定されました。

これにより、徳島県への船舶による緊急物資等の輸送ルートが複数確保されたこととなります。



みなと通信

座学で
港の役割や
海洋環境整備事業を
学びました



小松島高校生の皆さんが 安全で美しい海を守る取組みについて学びました ～海面清掃兼油回収船「みずき」にも乗船しました～

7月22日、徳島県立小松島高校の皆さんに当事務所の出前講座を実施し、地元小松島の港や小松島高校の生徒の皆さんが行ってきた横須松原一帯でのボランティア活動が、地域の環境や自身の生活にどのように影響をしているかを調査・研究するため、港の役割や変遷、当事務所の海洋環境整備事業について紹介しました。

今回は当事務所が所有する海面清掃兼油回収船「みずき」にも乗船し、海洋環境の保全や航行する船舶の安全確保のために長年行っている海面浮遊ゴミ回収や放水銃による油拡散のデモンストレーションを間近で体験しました。

生徒の皆さんは「(港は) 関わりがないものだと思っていたが、食料を輸入してきたりと様々な関わりがあることに驚き、関わりの深いものというイメージになった」と港の重要性を感じたほか、「地域の事をもっと知る事や環境についてしっかり考えるきっかけとなった」「大切な地元を守っていけるようにしたい」など、環境や地元への意識もより深くなったようでした。

今後も、皆さんの生活を支える港の整備や安全で美しい海を守る取組みを続けていきます。



↑「みずき」によるゴミ回収を
間近で体験！



↑油を拡散する放水銃！
とても貴重な体験です

徳島大学の学生に港湾行政について講義しました ～「港湾計画」を学生たちでつくり上げる実習も行いました～

7月28日、徳島大学工学部社会基盤デザインコースの「沿岸域工学」(担当教員：山中亮一講師)を履修する3年生の皆さんに、港の役割や港湾物流、港を構成する施設についての講義を行いました。また、学生の皆さんに実際に「港湾計画」を考えてもらうグループワークを行いました。

グループワークでは10人程度の4グループに分かれ、船や岸壁の大きさ、企業や市街地の立地箇所、地形図などの条件をもとに、どこにどのような施設があれば最も効率的な港となるのか学生の皆さんで議論しながら、それぞれの港をつくり上げていきました。

最後には、自分たちがそれぞれにつくり上げた港をみんなの前で発表、共有しました。港湾計画を立てることは簡単そうで難しく、また条件や携わるメンバーによって様々な計画が考えられることを実感していただけたのではないのでしょうか。

講義後のアンケートでは、「(港は) 日本の経済を支えている重要な施設であるということが分かった」「港湾の場所を決める際に様々な意見が出て面白かった」「グループワークを通して港湾をつくる際の考えることの多さに驚きました」など、港の重要性や港湾計画を立てることの奥深さ、グループワークの面白さを実感されていました。

徳島大学の皆さんが講義を真剣に聞き、グループで活発に議論しながら皆で形にしていく姿は、とても刺激的でした。社会に出てもしっかりと活躍されることでしょ！

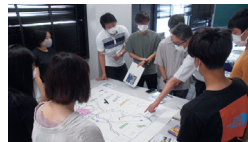
当事務所では、またこのような機会を設け、港湾行政をPRしていきます。

なお、本講義は徳島大学による新型コロナウイルス感染症対策のもとで実施しました。

各グループの
考えた計画を
発表し合いました



↑講義の様子



↑グループで港湾計画を創造！

県内の小学生の皆さんが、 安全で美しい海を守る取組みについて学びました ～「海と日本PROJECT in とくしま」に協賛！～

日本財団「海と日本PROJECT in とくしま」の一環として、徳島の海とハモの魅力などを学習するイベント(とくしまのはも★ひろめ隊が行く)が、8月1日から2日間行われ、県内小学生18人が参加しました。

「海と日本PROJECT」は、海の現状を伝え海を未来へつないていくためのアクションの輪を日本全国に広げていくために日本財団などがオールジャパンで推進するプロジェクトで、徳島県の幹事を四国放送が務めています。今回当事務所からは、港や船の役割、安全で美しい海を守る海洋環境整備事業についての座学のほか、海面清掃兼油回収船「みずき」に



普段馴染みの
ない「みなと」に
聞きたいことが
いっぱい！



↑海面浮遊ゴミ回収の実演や船の構造に興味津々！

よる海面浮遊ごみ回収や海上に流出した油を拡散するために用いる放水銃のデモンストレーションを行い、航行する船舶の安全や徳島の特産品であるハモが生息する海の環境を守る取り組みについて紹介しました。

参加した小学生の皆さんは「海をきれいにする大切さや『みずき』の船のしくみがよく分かった」「みずきはどんなに大きな物でもちゃんと入れてすごい」「(ごみ回収の) クレーンに迫力があってびっくりした」など、海を守る取り組みや船の構造に興味津々でした。

10月3日には、小学生の皆さんが描いたハモや学習イベントの様子を車体にラッピングしたバスのお披露目会が行われました。このバスは10月中、徳島から阿南・橘町区間で路線バスとして実際に走行しています。

「海と日本PROJECT」の活動はYouTubeでも公開されています! 今回の活動を動画でご覧になりたい方は、YouTube内で「海と日本PROJECT とくしま」で検索!



①「海をきれいにしよう!」とみんなで誓いました!



②学習の様子やハモの絵をバスにラッピング!

海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰について

四国地方整備局では、海をきれいにするために、港内、海浜等の美化活動に貢献した団体及び個人を対象に奉仕活動表彰を行っています。

令和2年度は、徳島県下で阿南市立椿泊小学校が表彰されました。椿泊小学校の目の前には、椿泊湾が広がっており、毎年、学校前の海に浮かんでいるゴミや打ち上げられたゴミの清掃活動を児童全員で力を合わせて取り組んでいることが評価されました。



笑顔いっぱい受賞しました! これからもみんなの美しい海を守っていきましょう!

国土交通行政関係功労者表彰について

四国地方整備局では、令和元年度内に完成した工事、完了した業務の中で特に優れた成績を収めた工事、業務、技術者等を表彰しています。

本事務所の関係では、「平成30年度 徳島小松島港中期整備計画検討業務」(実施:株式会社工コー四国事務所、管理技術者:白井英一氏)が局長表彰されました。

本業務では、学識者や港湾関係者、行政関係者で組織した「徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会」ならびにWG(ワーキンググループ)の開催・運営補助、徳島小松島港中期構想や徳島小松島港活性化プランの立案のほか、徳島小松島港の施設整備による整備効果の検討において、様々な条件のなかの確に検討を実施したこと、わかりやすく資料をとりまとめたことが評価されました。

また事務所長表彰では、「令和元年度 徳島小松島港沖洲(外)地区防波堤築造工事(その2)」(受注:タチバナ工業株式会社/現場代理人:小野 浩司氏(下請:高原建設株式会社/技術者:繁田 浩平氏))及び、「令和元年度 徳島小松島港本港地区岸壁(-9m)改良検討業務(受注:中央復建コンサルタンツ株式会社徳島営業所/管理技術者:勝俣 勝氏)」を表彰致しました。

徳島小松島港沖洲(外)地区防波堤築造工事(その2)では、大型フェリーの往来や貨物船の入出港等による制約条件など難易度の高い工事でありましたが、会社一丸となって施工に取り組んでいただきました。徳島小松島港本港地区岸壁(-9m)改良検討業務では、特殊な構造を持つ岸壁の改良設計の先導的なモデルとして、品質の高い業務成果をあげられました。



①表彰式の様子

左:工コー柴木社長、右:丹羽四国地方整備局長



②事務所長表彰記念撮影

写真前列左側2番目から順に、タチバナ工業(株)小野 浩司氏、松田 善雄氏、中央復建コンサルタンツ(株)牛嶋 龍一郎氏、勝俣 勝氏、高原建設(株) 繁田 浩平氏

「四国みなとオアシス協議会」令和2年度第1回通常総会が開催されました

8月26日、みなとオアシスの運営団体や設置団体で構成する「四国みなとオアシス協議会」の令和2年度第1回通常総会が開催され、徳島からは徳島県で唯一のみなとオアシスである「小松島みなとオアシス」を運営する「NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」の理事長らが出席されました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、四国の各地区においてWEB会議形式で開催されました。

今回の総会では現役員の任期満了に伴う役員改選が行われ、平成29年度から令和元年度まで本協議会の会長を務められた理事長が今回の改選をもって会長をご退任、新たに副会長として本協議会を支えていただくことになりました。新会長には、「みなとオアシス久礼」の三浦薫也さんが就任されました。そのほか総会では、令和元年度の活動報告、愛媛県西宇和郡伊方町の「佐田岬はなはな」のみなとオアシス新規登録などについて審議したほか、四国各地区のみなとオアシスの現状や取組状況について意見交換を行いました。

「みなとオアシス」は、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを推進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するもので、「小松島みなとオアシス」は平成16年に四国で最初に登録されました。今後も「みなと」からの賑わい発信に貢献できるような取組みが期待されます。



③みなとオアシスを利用したイベントで賑わう様子



みなと通信

横須松原で「松原の育樹ボランティア活動」が行われました

8月16日と9月22日に、小松島市の横須松原ならびに横須海岸において、今年も徳島県立小松島高校の皆さんによる清掃ボランティア活動が行われました。今回は100人を超える高校生や先生方の皆さんによって、横須松原の根元の雑草刈りや横須海岸の清掃が約1時間かけて行われました。地元の方々に加え我々事務所職員も参加させていただき、松原の保全や海岸をきれいにするためのお手伝いをさせていただきました。

この活動は今年で21年目を数え、2013年には小松島高校の皆さんのこの取組みが海岸環境美化活動の功績として称えられ、海事功労者へ贈られる国土交通大臣表彰を受賞しています。

一度は虫食い被害などにより松の木が極端に減少した松原ですが、小松島高校の皆さんの継続した育樹・清掃活動により、現在は多くの松原が小松島のまちを見守っています。毎年5回を超える活動を実施しているとのことで、これからも自然環境の保全や地域を大切にする取組みが期待されます。



↑真夏の日差しに負けず清掃活動に励んでいます！



↑当事務所からも海岸清掃に協力させていただきました

MINATO Photo Contest

みなとフォトコン



金磯岸壁に寄港した護衛艦「しらぬい」

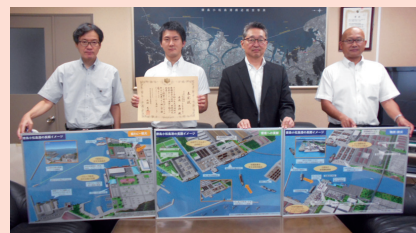
海上自衛隊の護衛艦「しらぬい」が金磯岸壁にて特別公開されました！
迫力満点でちびっ子から大人まで大興奮の様子でした☆ by SS

事務所職員コラム

4月から企画調整課に参りました米原です。企画調整課では、徳島や四国の地域経済発展を目指し、港の課題や利用者・企業のニーズを掴み、便利で使い勝手の良い港であるための港湾施設整備や構想などについて検討しています。また、出前講座やイベントなどを通じて、広報活動や地元の地域活性化にも取り組んでいます。

8月には、四国地方整備局主催で毎年行われる「管内技術・業務研究発表会」において、大きく環境が変わりつつある徳島小松島港の概ね10年程度で目指すべき姿を描いた中期構想の策定について発表し、優秀賞を受賞しました。

今後も四国ならびに徳島の地域経済発展のため、様々な業務に取り組んで参ります。



↑事務所の皆様のご協力で優秀賞を受賞できました！
中央左：私、中央右：事務所長
左：副所長（技術）、右：副所長（事務）

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座（みなと学習、環境学習、防災学習）を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL (0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。



事務所新ホームページQRコード